

東桜コンピテンシー2019 「①ビジョン」について

①「ビジョン」

数年～数十年単位の中長期的な目標として、望ましい社会や理想とする自分の姿を思い描く力。

皆さんに「幸せな人生を送ってほしい」

これは、皆さんのご家族、そして、先生方の共通した願いです。そのために、必要なことを学校では学んでいます。

幸せな人生を送るためには、ただ刹那的に日々を過ごすのではなく、自分なりの将来設計、ビジョンを持って生活することが大切だと思います。

(i) 「数年～数十年単位の中長期的な目標として、望ましい社会や理想とする自分の姿を思い描く力」

1987年にノーベル生理学・医学賞を受賞した利根川進さんの言葉に

「一人の科学者の一生の研究時間なんてごく限られている。研究テーマなんてごまんとある。ちょっと面白いなという程度でテーマを選んでいたら、本当に大切なことをやる暇がないうちに一生が終わってしまうんですよ。だから、自分はこれが本当に重要なことだと思う、これなら一生続けても悔いはないと思うことが見つかるまで、研究をはじめると言ってるんです。科学者にとって一番大切なのは、何をやるかです。」というのがあります。

皆さんにはいずれ、自分にとっての「ライフワーク」と呼べるような問いを見つけたいと願います。その問いは研究者にとっては研究テーマでしょうし、広く言えば職業と捉えてもいいかもしれません。自分の一生を賭けても惜しくないライフワークに出会った人は幸せだと思います。しかし、それを決めるのに頭を悩ませている人も多いことでしょう。いろいろな人の話や読んだ内容を参考にしながら、視野を広げ、いずれ自分にとってのライフワークを決めてほしいと願います。

そして、それを決める、ないしは大きく方向付けるための土台を築く時期として、中学生や高校生の時代はたいへん大切な時期だと思います。

中期的な見通しとして、大学等に進学しようと考えている人が多いと思いますが、大学という場所は、自分の問いをより明確にするため、また、その問いを解決するための力の基礎を築くためにいくところであり、大学に入学することそのことが目的ではないということを自覚すべきです。

(ii) ビジョンを描く前に、できるだけ現状を正しく認識しよう

より望ましいビジョンを思い描くためには、まず、いま自分が置かれている現状をできるだけ正しく認識することが必要でしょう。

2019年に日本でよく読まれた本の一つに「FACT FULNESS」(ハンス・ロスリング他著、日経BP社)があります。この本では、冒頭部分に13の質問が登場します。その1番目が次の質問です。

質問1：現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を修了するでしょう？

A：20% B：40% C：60%

正解は、Cなのですが、日本人の正解率は7%だそうです。三択ですから、勘でも30%くらいはいきそうなものですが、最も高いスウェーデンでさえ正解率は11%だったそうです。つまり、ある種の思い込みが働いていることがここから推測されます。

ここで、皆さんも気付かれたと思います。そもそも我々はいろいろなことを正しく認識しているのだろうか？と。

おそらく、ここ数十年の日本の変化よりも劇的に変化した国は、世界を見渡せば数多くあることでしょう。それにも関わらず、私たちはある種の思い込みやバイアスのかかった考えで物事を判断している恐れがあるということです。

まずは、クリティカル・シンキングを働かせて、現状をできるだけ正しく認識することを心掛けたいものです。

令和2年(2020年)1月